

# ご挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございませす。本年が皆様方にとりまして輝かしく、ご発展の年となりますよう心からご祈念申し上げます。

本年は私にとりまして3期目の初めての新年でございます。村民皆様の幸せの為、意を新たに於いては都市と田舎の格差是正とは言っておりませんが、相変らず地方交付税の削減は厳しく、税財源の委譲は僅かばかりで、まだまだ忍耐の時期は続くものと思ひます。市町村合併の大嵐は少々遠のきましたが、県に於いては尚進めようとする勢力は残っています。原村という村がなくなつては、皆様の夢も理想も実現出来る術はございません。我々は誇りと団結を失わずに、この村を守つていかななくてはなりません。その点では、先の村長選挙でも3人の候補とも合併は目指さないと明言しました。原村は今後共合併をせず村づくりを進めて行くことを、村民は記憶に確と留めなくてはなりません。

合併はしなくても中小の町村の事業は窓口事務のみにしてしまおうという動きもありますが、この様な2級町村を作らせてはなりません。日本の国土は恵まれない所で頑張つている町村があればこそ守られていることを国民は等しく認識しなくてはなりません。

さて苦しい財政事情の中ではありませんが、可能な限り村民の満足度を高めるべく今年も務めさせて戴きます。誇るべき福祉健康の村づくりの継続発展、子供たちの遊び声が村中に満ち溢れる村実現の為に子育て支援の充実と若者定住の促進、働き口へ

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

昨年は4月に県議員選挙があり、茅野市・諏訪郡富士見町及び同郡原村選挙区となり、茅野市の2名が当選しました。

原村議員選挙は、定数2減で行われ、11名が無投票で当選しました。

国政では「消えた年金」、防衛省官僚の汚職疑惑などに怒りを覚え、地球温暖化で、環境問題を考えさせられました。7月の参議院選挙では、与野党が逆転しました。「美しい国」を掲げた安倍内閣は、閣僚の不祥事も相次ぎ9月に総辞職、10月に「地域間格差に配慮し、温もりのある政治」を掲げた福田内閣が発足しました。

参議院議員選挙と同時投票の原村長選挙では、原村初の3人で争われ、清水現村長が三選されました。さて、16期の議会は、5月の議会構成から出発し、住民の皆様様に議会を身近に感じてもらえるように、各地域に向いて意見を聞こうと、10月には、南原公民館、大久保公民館と中央公民館で議会報告会を開きました。合わせて30名の方が参加され、30数項目の貴重なご意見、ご提言をいただきました。結果は、議会だよりでお知らせし、今後の活動に生かしてまいります。3月議会の後にも開催する予定で、ぜひご都合してご参加をお願いいたします。

昨年からの投機マネーによる原油や穀物価格の高騰は、燃料や食料品を値上げし、日常生活はもろろん、農業や商工業において非常に重い負担となっています。4月には後期高齢者医療制度が始まり、

# 明日に向かって

# 行政

Administration

新春特集

# 新春のメッセージ



原村長 清水澄 (しみず あきひろ)

確保の為産業の育成強化、人口二万人を目指す定住強化、環境浄化とゴミ問題の解決。一生懸命励んで参ります。

二酸化炭素の排出過多は地球温暖化というとても大きな問題を惹き起してしまいました。私達は便利さと引き替えに、この地球という星が存続できない所まで追い詰めています。一人一人が省エネや、二酸化炭素排出抑制に努めなければ、私達の子孫に未来はないのです。原村のような環境の美しい、一方では農業によって自然の恵みを受けている村から、地球の未来を展望する活動を起こして行かなくてはなりません。村では省エネルギービジョンを策定中です。村民の皆様も自分の出来る所から始めて、この地球を救って戴きたいと思ひます。環境を守つていく、環境に負荷をかけないは、これからの行政に課せられた大きな使命です。

さて毎年お願いしていることではありますが、環境豊かな原村、活力ある地域づくりの原村ですから、村内道路や河川、山林や農地に不法投棄やポイ捨てのゴミが散乱していたのでは、話になりません。それでは活力ある村も特徴ある村も台なしです。見つけたら拾う、捨てる人を見かけたら注意する、大量や大きな物は役場に連絡戴いて美しい村を保つて戴きたいものと、お願いするものです。

皆様方のご多幸とご健勝を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

国民負担が一層増えると思ひます。

このような時にこそ過去、現在の的確な認識の上に、未来への確固たる展望に基づき、逆境にも意欲をもって立ち向かう姿勢が大切だと考えます。原村にも、手狭になつている保育所の増築や原つ子広場・学童クラブなどの子育て支援、健診・介護などの保健や福祉、農業振興、観光の活性化などの課題があり、意欲をもって立ち向かっていかなければなりません。

焼却灰の溶融炉問題から、ゴミへの考え方も変わり、昨年始まった「容器包装プラスチック」など資源物回収では、住民意識が非常に高まり、焼却ゴミが20%余り減りました。住民の活力の発揮こそ村づくりの源泉です。

安心安全で活力ある村づくりに向け、八ヶ岳西麓の、緑豊かな環境を生かし、知恵を出し合い、汗をかいて村民の負託にこたえるべく、全力で取り組みます。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

8月に北京オリンピックが開催されます。原村出身の選手が活躍した冬季オリンピックのように、将来は、高冷地の特長を生かし原村に育つた子どもたちが資質を磨き、マラソン等に出場できたらと思ひます。

今年こそ皆様に健康と繁栄をもたらす、すばらしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 議会

Assembly



原村議会議長 水戸 眞彦 (みずの まさひこ)



◆保育料の改定  
平成19年度より、保育料を、第2子半額、第3子以降を無料とする改定を行い、保護者の負担を減らしました。

◆原体協60周年迎える  
敗戦後の昭和23年に結成された原村体育協会の第一歩は、穂屋祭と並行した奉納軟式野球大会の開催で、穂屋祭を原村地区として盛り上げることとなりました。また、毎年、体育振興に貢献した方たちの表彰も行っています。平成19年度は次の方たちです。  
功労賞 清水優子（バレーボール）  
栄光賞 平林友一（柔道）  
栄光賞 清水玲香（スピードスケート）  
栄光賞 やつがねクラブ（早起き野球）  
感謝状 小林 厚（体育協会事務局職員）



◆阿久遺跡保存30周年記念シンポジウム  
昭和50年から発掘が始まった阿久遺跡の保存運動は全国規模で展開されました。保存運動の始まりから30周年を記念し、遺跡の重要性を再認識するために、実行委員会を立ち上げシンポジウムを開きました。パネリストは発掘を行っていた当時の県教育委員会職員や新聞記者など関係者10名で、阿久遺跡まつわる大変貴重な話を聴いたり、発見された環状集積群の歴史にも迫ることができました。



◆原小学校の新・給食棟完成  
昭和52年に改築された給食室は、建物の老朽化に伴い、文部科学省による「学校環境衛生基準」に適合する新しい給食施設の建設をすすめ、2月8日に完成、4月から使用しています。



◆原村埋蔵文化財収蔵庫 無料公開シンポジウムに合わせ柏木にある収蔵庫が前日、無料公開され、2時間の間に約150人が訪れました。



◆「はらむら物語り」のホームページとパンフレットが完成！  
法政大学と事業協力に関する協定を締結により、昨年は学生自らの取材に基づき「楽」「食」「泊」の要素別に店舗や工房を紹介する「はらむら物語り」を完成させました。



◆清水澄村長3選  
任期満了による村長選挙は3人が立候補し、安全、安心、安定の村づくりを掲げた現職が3度目の当選を果たしました。任期は8月8日から4年です。



◆長野県最高齢～小池きみゑさん～109歳  
109歳で長野県最高齢となったのは柳沢出身の小池きみゑさんでした。9月1日現在の長野県の最高齢者です。生まれた年は・・・明治31年です！  
県知事から祝長寿と書かれた祝状が贈られました。村長は記念品と花束を手渡しました。敬老訪問したとき、小池さんが自分でスプーンを持って食事されている、元気な姿も見ることができました。

2007年主なできごと

11日	8日	7日	7月1日	6日	3日	6月1日	13日	5月10日	4月22日	29日	19日	10日	10日	3月5日	12日	2月1日	20日	12日	11日	7日	3日	1月1日
◆村長選公開討論会	◆原村消防団ポンプ操法大会	◆サマーセミナー（～8日）	◆2007八ヶ岳森林浴マラソンin原村	◆第2回原村議会定例会（～18日）	◆第23回八ヶ岳開山祭	◆諏訪地区小児夜間急病センター開所式	◆土井たか子氏講演会	◆第1回原村議会臨時会	◆原村議会議員一般選挙、無投票にて当選	◆法政大学地域づくり事業完成式	◆N.Z中学生訪問団派遣（～30日）	◆商工会青年部結成40周年式典	◆八ヶ岳ヒューマンエナジー設立式典及びお披露目	◆第1回原村議会定例会（～23日）	◆室内区農用地利用改善団体設立	◆ごみ分別地区説明会12会場（～9日）	◆第8回原村村民冬季スポーツ祭	◆エルシーブイFM放送開局式	◆行政嘱託員（区長）会議	◆原村消防団出初式・表彰式	◆原村成人式	◆御来光登山及び元旦マラソン



◆原小リコーダー合奏団2年ぶりに東日本大会出場  
こども音楽コンクール東日本優秀演奏発表会代表選考会で、原小学校のリコーダー合奏団が長野県代表の13団体のうちの1つに選ばれ、東日本大会への出場が決まりました。団の皆さんは大会出場を村長へ報告し、12月2日東京都文京区で開催されたその大会で見事優秀賞を収めました。2008年1月27日には八ヶ岳美術館でコンサートが開かれました。3月末には東京都で開かれた全日本リコーダーコンテストにも県代表として出場しました。



◆諏訪地区小児夜間急病センター開設  
小児科医不足による医師の負担増大と、夜間、基幹病院に患者が集中することによる二次救急への影響を減らすため、小児の初期救急医療を一元化した急病センターが諏訪地区に誕生しました。

村では昨年、新たな分別収集方法や「地域省エネルギービジョン策定等事業」への取り組みが始まるなど一段と環境問題への対応策が進歩しました。人口は7,700人台に到達しました。夏に執行された村長選挙は投票率が80%を超えるなど、村政への関心が高まった年でもありました。夏に1年間に起きた主なできごとを紹介いたしますので、みなさんの2007年を振り返ってみてください。

14日	9日	6日	12月1日	22日	4日	11月3日	28日	27日	26日	17日	14日	10月9日	29日	27日	15日	13日	9日	7日	2日	9月1日	30日	19日	18日	8日	31日	29日	22日	
◆第1回村長との寄り合い対話	◆環境保全型農業エコファーマー認定証書交付式	◆第4回原村議会定例会（～19日）	◆中新田区大火100周年記念式典	◆N.Zテ・ハエレンガ社会人訪問団派遣（～28日）	◆阿久遺跡保存30周年シンポジウム	◆第54回原村村文化祭（～4日）芸能フェスティバル（10日）	◆県営圃場整備室内工区竣工記念除幕式	◆第8回八ヶ岳まるごと収穫祭（～28日）	◆原村表彰式	◆ホテル交流プロジェクト、原っ子の森で冒険遊び場	◆原村体育協会60周年記念区対抗ソフトボール大会	◆不要入れ歯回収始まる	◆森林の里親（エコラの森）事業調印式	◆よみがえれ八ヶ岳森林軌道復元完成式（アルピコ四季の森前）	◆八ヶ岳星と歩くナイトウォーク	◆小池きみゑさん敬老訪問	◆親子で学ぶサイエンススクール	◆第3回原村議会定例会（～25日）	◆原村敬老会	◆原村総合防災訓練	◆原中学校生徒議会	◆第60回穂屋祭体育大会（～26日）	◆第15回よいしょまつり	◆清水村長3期目初登庁	◆第14回サマーホリデーin原村星まつり（～5日）	◆平出副村長退任式	◆「村長選挙」「第21回参議院議員通常選挙」投票票	◆第49回諏訪地区消防ポンプ操法大会、第34回諏訪地区消防ラッパ吹奏大会

医療というものは、限りある社会共有資源とも言われます。

日本の医療は世界に誇れる国民皆保険制度、つまり助け合いの制度で成り立っています。

また原村では独自の手厚い医療費助成制度があります。

これらを守るために、より効率的な地域医療体制を作っていくことが大切です。軽症の病気や慢性疾患は診療所で、高度専門医療や救急医療は大きな病院で、という役割分担を押し進めることは、医療の効率化に役立ちます。

住民の皆様に診療所の良さをお伝えして、より上手に利用して欲しいと願っています。

原村には三つの診療所があります。成り立ちには異なりますが、診療所としての社会的役割を担う点では同じで、この三つの診療所がうまく連携して、より良い医療を地域全体に提供することが大切だと考えています。

村内の三つの診療所にはそれぞれに得意分野があります。今回は2つの診療所の先生を取材し、原村診療所とともにそれを紹介いたします。それぞれの特徴を知り、上手に利用してください。

村のかかりつけ医のコーナーが連載1周年を迎えましたので特集をお届けします

# 特集 地域医療

～自宅で安心して暮らすことのできる医療体制～

## 原村診療所▽予防・治療・介護・福祉の連携を大切に。

診療所長の安藤公二です。この診療所をあらためてご紹介させていただきます。

### ○特徴

この診療所は村営です。約60年の歴史があります。原村地域福祉センター内にあり、センターの1階には村の保健福祉課や社会福祉協議会もあります。2階では社会福祉協議会が通所介護（デイサービス）を運営しています。予防、治療、介護、福祉の連携がとりやすい環境になっています。

### ○診療している内容

内科が中心です。インスリン療法を行う糖尿病患者さんも多く来院されています。軽症の外傷や小児診療も行います。可能な検査は、血液、尿、咽頭ぬぐい液、レントゲン、胃カメラ、エコー、視力、聴力、呼吸機能などがあります。糖尿病の検査項目をはじめ、コレステロール、中性脂肪、尿酸、肝機能、貧血検査など15分程度で結果が出ます。大きな病院より速いですよ。骨密度はリバーサイドクリニックに依頼しています。他の詳しい検査は病院や検査会社へ依頼します。薬は院外処方です。ジェネリック薬品（同じ効き目で低価格な薬品）が希望の方は遠慮なく申し出てください。

1日の患者数は40〜70人ぐらいです。午後より午前の方が混みます。外来患者数が多いため、往診の回数を増やすことは難しくなっており、村内の別の診療所へ依頼をすることが増えています。歴史的に諏訪中央病院との結びつきが強い診療所です。漢方専門医の長坂医師が月1回、今や全国的に著名な鎌田実医師が月2回、リバーサイドクリニック所長の安藤親男医師が月2〜3回診療にきています。副院長の谷内先生は月に1回、C型肝炎患者のカルテに目を通し、検査や治療計画を立てるなど全面的に協力してくれています。また、西澤理学療法士が週2回、リハビリを行っています。

ナースは3人います。村民ですの

で村の事情にいろいろ詳しく、診療上役に立っています。



診療所長 安藤公二



## 八ヶ岳診療所▽往診で在宅医療を支える



八ヶ岳診療所の遠藤誠子先生に話を伺います。

### ①八ヶ岳診療所の特徴は？

この診療所では、在宅で療養さ

れている患者さんの支援と、地域の良きかかりつけ医になることを診療の大きな柱にしています。歳をとっても、病気で障害を持っても、できるだけ自宅で暮らしたいというのは誰もが願うことでしょう。診療所では介護や福祉関係の職種の方々と相談しながら、患者さんやご家族ができるだけ負担なく過ごせるように努力しています。

②どのように患者が利用していますか？ どのようなとき訪れたらよいですか？  
例えば、病気だったり、高齢で通院が困難な方のお宅には定期的に往診に伺います。夜間や休日でも電話で相談をお受けして、軽症状であれば自宅での対処法をご説明し、診察の必要があれば往診します。緊急性があれば大きな病院を紹介するなど、その状況に応じた対応をしています。安心して在宅で療養できるように、いざというとき頼りになる診療所を目指しています。

かかりつけ医として大事なことは、地域の皆様が気持ちよく、安心してかかれるようにすることだと考えています。専門は一般内科で、高血圧、糖尿病、痛風などの慢性疾患や、風邪、腹痛、膀胱炎などの急性疾患の患者さ



丸山恵子先生

中新田診療所の丸山恵子先生に話を伺います。

①中新田診療所の特徴は？  
こちらの診療所は富士見高原病院の附属の診療所として、平成16年4月に開所しました。スタッフは全員、高原病院の職員です。附属診療所であるため、CTやMRI、胃カメラなどの諸検査がすぐに予約できる利点があります。

「おへらの」という老人保健施設を併設しているのも特徴です。要介護認定を受けた方が、原則として3ヶ月を上限に、病院と

在宅の中間の療養を受けられます。ここに入所されている方々も必要に応じて診察しています。②どのように患者が利用していますか？ どのようなとき訪れたらよいですか？

「こころの診察室」として精神科の診療を行っています。毎週金曜日に竹中先生が担当していますが、今年9月から、毎週火曜日の午前中のみ、山梨県立山梨北病院の先生による「こころの診察室」も増設しました。精神的な悩みがある方はお気軽にご相談ください。10月からは、毎週月曜日の午前中に高原病院の麻酔科部長の小島先生によるペインクリニック（痛みの治療）も始めました。関節の痛みのある方は物療もありですのでご相談ください。

私の専門が神経内科ですので、頭痛やめまい、パーキンソン病、神経変性疾患などの病気が多いのも特徴です。顔面けいれんや眼周囲のけいれんの治療もしています。通院できない患者さんには訪問診療も行っています。

今後は、もう少し多くの方々に診療所を利用していただき、訪問診療も数を増やして、家で看取りができるような環境を提供したいと思っています。

（2007年11月号に掲載）



## 中新田診療所△神経内科・こころの診察室、ペインクリニック増設

# 平成19年度「大学と連携した地域づくり事業」

## 報告



原村と法政大学の村づくりに関する「事業協力に関する協定」は2年目を迎えています。一昨年は、社会学部と経済学部の一つのゼミの学生たちが原村で地域活性化のための調査・研究を行い、村への提言をしています。19年度はこの提言を基にした取り組みも始まりました。

### ★社会学部 岡本ゼミ

#### ◇地域活性化のための提言

#### 「原村産セロリパッケージの統一案」

夏場の生産高日本一のセロリを、原村に関する情報を載せたパッケージに入れて販売。原村ブランドで売り出すことで、原村の知名度アップにつなげる。

#### ◇地域活性化のための取り組み

社会学部の岡本ゼミの学生は、原村産のセロリを原村ブランドで売るための専用のチラシをデザインし、夏場のセロリ生産高日本一をアピールする「原村さんちのセロリ」として売り出す実験をしました。

7月30日には、茅野市内のスーパー2店舗の協力を得て、「原村さんちのセロリ」をPRしました。学生たちは専用のチラシを一枚ずつ既存のパッケージに輪ゴムでとめて、店頭での販売促進にも積極的に参加。「おいしい、やさしい、ヘルシーを原村のセロリのイメージとして定着させていきたい」と話し、ブランドづくりに意欲をみせていました。

### ★経済学部 永井ゼミ

#### ◇地域活性化のための提言

#### 「野菜ジュースバーの出店案」

原村産野菜を使ったジュースを開発し、首都圏に設けたジュースバーで提供。情報発信とともに都市住民が求めるものを調べ、原村の活性化に役立つ。



東京でのPRにも挑戦しました。8月15日から5日間にわたって高島屋東京店で開かれた長野県主催の観光物産フェア「素敵な信州の田舎体験 長野フェア」では、「原村さんちのセロリ」に加え、トウモロコシなどを販売しました。セロリのおいしい調理法や新鮮なセロリの見分け方などの質問にもてきぱきと応答して、原村の自然のすばらしさや特色などもわかりやすく説明していました。

### ◇地域活性化のための取り組み

経済学部の永井ゼミの学生たちは原村産の朝取り野菜を使った野菜ジュース作りに取り組みました。特産のセロリを入れながら、飲みやすくするにはどうしたらいいのかを研究し、試行錯誤しながら、トマトの酸味とニンジンの甘さをバランス良く出し、セロリの香りや苦味を抑えた特製ジュース「原村サンサンジュース」を作り上げました。

8月8日には八ヶ岳自然文化園で、来園していた観光客の皆さんに試飲していただき、アンケートを実施。ジュースはその日に作ったもので、材料のセロリやニンジンなどは、学生たちが朝から村内の農家の畑に出向き、自分たちで収穫したものを使いました。試飲した観光客からは「とても飲みやすかった。健康に関心がある時代ですから、注目されるかもしれませんね」という感想が寄せられていました。

8月24-26日の麻布十番「納涼まつり」では、この生野菜ジュースを「原村サンサンジュース」と銘名して、販売にも取り組みました。村外でこのジュースを販売するのは初めてでしたが、「さっぱりしていて、とてもおいしい」と評判でした。

### ★今後の「大学と連携した地域づくり事業」

原村ブランドづくりのために、今年度は原村産野菜のPRを中心にした取り組みを首都圏で展開してきました。今後は、これらの経験を生かしながら事業を継続し、村と大学、住民の皆さんとの連携によって原村ブランドづくりを進め、地域活性化につなげていきます。

## 【移住・交流受入システム支援事業】 好評! 田舎暮らし体験バスツアー

都会で暮らす方を対象に、原村で暮らすことの魅力、すばらしさを体験する1泊2日のツアーを、名古屋発(10月20・21日、参加者7名)と、新宿発(同月27・28日、参加者11名)の2回にわたり、それぞれ週末を利用して実施しました。



村内5箇所不動産物件見学を実施

原村は平成19年度から、都市住民の移住・交流を推進することで村の活性化を進めるシステムづくりに取り組んできています。その一つが、定住の促進や、観光に訪れる人たちをどのように増やしていくのかを研究するモニターツアーです。移住の候補地として原村がどのような利点を持ち、問題点があるのかを調べ、同時に村内の宿泊施設や店舗・工房などをツアー参加者に利用していただき、交流の場としてこの

これらの施設の活用方法を考えるため、財団法人地域活性化センターの助成金を活用した体験バスツアーを行いました。ツアーでは、参加ツアーでは、参加していただいた皆さんに原村のことをよく知ってもらうために、到着してすぐにオリエンテーションの間を取り、村の特徴や暮らしにかかわる施策などを説明しました。特に関心を持っていただいたのは福祉行政で、65歳以上と中学3年までの住民に対して行っている医療費無料化の施策は、皆さんが大変評価しておられました。初日は、機織りや陶芸等の体験工房見学のほか、温泉入浴などを楽しんでいただきました。ペンションに宿泊していただきました。工房見学では、オーナーが移住地として原村を選ばれた方だったこともあって、体験談が喜ばれました。2日目には、村内にある施設や不動産物件の見学をしていただきました。住宅用地や中古住宅などを実際に見ることで、移住のイメージを膨らませた参加者も多かったようです。原村に移り住んだ著名人との懇談会も計画し、フリーアナウンサーの小林節子さんに、毎日表情を変える八ヶ岳に代表される原村の自然について

語っていただき、その中で「地元の方と仲良くなれば、田舎暮らしはもっと楽しくなります」とアドバイスしておられました。バイオリン制作者の番場順さんは「原村に住むなら、美しい自然と調和しながら暮らしていくことが大切です」と語りかけていました。村では、モニター参加者に書いていただいたアンケートを分析し、課題を見つけ、解決の方策を探る手掛かりにしていきます。平成20年度も引き続きツアーを行い、移住の地としての原村の魅力やPRし、地域資源を活用しながら情報発信していく計画で、研修を通して育成した「田舎暮らし案内人」の皆さんにも活躍していただき、移住・交流の促進につなげる予定です。



小林節子さんと語る参加者

### ○田舎暮らし体験バスツアースケジュール

- 18日**
- 10:30 オリエンテーション
- 12:00 昼食
- 13:00 八ヶ岳自然文化園散策(自由行動)
- 14:00 体験工房見学(体験とIターンの先輩の体験談)
- 15:30 温泉入浴(もみの湯)
- 18:00 ペンション分泊
- 28日**
- 10:00 村内施設・不動産物件見学
- 12:00 昼食
- 13:00 原村へ移住した著名人との懇談会  
名古屋班:小林 節子さん  
(フリーアナウンサー)  
東京班:番場 順さん  
(バイオリン制作者)
- 14:00 自由行動
- 15:30 原村発